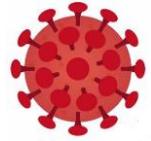


チクられた病状

青野正宏

コロナなる異常をさとり	おもしろくなくて悲しむ
緑なす箱根は行けず	浅草もいくによしなし
しろがみ(白髪)の仲間と夕べ	酒盛りは泡へと流る
あたまくるいかりはあれど	世に満つるコロナは怖く
浅くのみあたま霞みて	顔の色わづかにあおし
たびたびの兆候いくつか	PCR 検査いそぎぬ
医者行けど安心見えず	うたがわし彼の口先
チクられていざかやナシに	軋む仲宿る憤懣
ひとり酒にごう(二合)を飲みて	くさる気をしばし慰む



千曲川旅情

小諸なる古城のほとり	雲白く遊子(いうし)悲しむ
緑なすはこべは萌えず	若草も藉(し)くによしなし
しろがねの衾(ふすま)の岡辺(おかべ)	日に溶けて淡雪流る
あたゝかき光はあれど	野に満つる香(かをり)も知らず
浅くのみ春は霞みて	麦の色わづかに青し
旅人の群はいくつか	畠中の道を急ぎぬ
暮行けば浅間も見えず	歌哀し佐久の草笛
千曲川いざよふ波の	岸近き宿にのぼりつ
濁(にご)り酒濁れる飲みて	草枕しばし慰む

